

1時間の雨量が観測史上最大の88・5ミリ 大雨で只見町民4333名に避難指示



▲大量の土砂と倒木が民家を襲った土砂災害(布沢地区)

7月18日、1時間の雨量が観測史上最大となる88・5ミリを記録した豪雨が只見町を襲い、町内各地で冠水や土砂災害などの被害が発生しました。6年前の新潟・福島豪雨を思い出すような激しい大雨となり、人々を震撼させました。

― 全町に避難指示 ―

同日午前2時30分頃から降り出した雨は、急激に雨あしを強め、午前2時50分に大雨警報、同58分に土砂災害警戒情報、午前3時40分に洪水警報が発表されました。その後、観測史上最大となる1時間あたりの雨量88・5ミリの雨量を記録し、河川の氾濫や土砂災害の発生が予想されたことから、午前4時40分に災害対策本部と水防本部を設置、午前4時50分に町内全域1866世帯4333名に避難指示を発令しました。避

難指示を受け、町民の方々は各振興センターや各地区の集会施設などに避難し、総数137名の方が避難しました。

また、町内の4小中学校も休校となり、只見高校も課外授業や部活動などが中止となりました。

― 迅速な対応 ―

水防本部の設置により、町内では消防団員による迅速な水防活動が行われました。雨あしの強い中、避難誘導や土砂の撤去、浸水しそうな民家には土のうを積み、ポンプで水を排出するなどの対応を行い、被害を最小限にとどめました。

その他にも、関係機関の連携による要援護者への支援や、避難所支援などが行われ、豪雨による人的被害はありませんでした。

― 豪雨による甚大な被害 ―



▲流失した林道



▲大雨のため叶津川が氾濫し流出した国道(叶津地区)



▲土砂が流れ込んだ水田



▲道路が冠水した田中地区



◆豪雨による被害状況速報(7月26日現在)

- (1) 人的被害 なし
- (2) 建物被害
 - ・ 床下浸水 70 棟
 - ・ 土砂崩れによる一部損壊 3 棟
- (3) 交通状況
 - ・ 国道・県道 通行止め箇所全解除
 - ・ 町道 路体、路側決壊等 全 21 箇所
 - ・ 林道(調査中)路体決壊等 全 70 箇所
 - ・ 鉄道 運行再開
 - ・ 雪んこタクシー 運行再開
- (4) 農地・農業用施設(調査中)
 - ・ 水田、畑地、水路 全 95 箇所
- (5) 河川被害 12 箇所
- (6) 避難者の状況 避難者総数 137 名
- (7) ライフラインの状況
 - ・ 水道、固定電話、電気 復旧済
 - ・ 携帯電話 布沢地区に移動基地局を設置
- (8) 観光施設等被害(調査中)
 - ・ 旅行村敷地内土砂流出等
 - ・ 登山道等仮設橋梁流出 3 箇所
 - ・ 登山道崩落 各所

今回の大雨により、建物では床下浸水70棟、土砂崩れによる家屋の一部損壊3棟など多くの被害を受け、町道や林道などの道路は路面が流されたり土砂が流出したりと大きな被害を受けています。さらに農地や農業用施設では、冠水や土砂流入などが発生し、トマトや水稲など多くの農作物に大きな被害がでており、今後の収穫への影響が懸念されます。

ライフラインでは断水や停電、電話の不通により一部の地域で使用できないことがありましたが、いずれも復旧しております。また、固定及び

携帯電話が不通となった布沢地区では、避難所と災害対策本部の連絡にWi-Fi無線が有効に活用されました。観光施設でも旅行村の土砂流出や登山道の崩落などの被害が発生し、観光客などの受け入れに影響がでています。

— 大きな被害を受け —

今回の大雨の影響により町内各所で様々な被害が発生しております。今後も大雨が降る可能性もあるため、気象予報には十分注意してください。

そして、この度の大雨で被災された皆さまへ、心よりお見舞い申し上げます。

只見ユネスコエコパークの豊かな緑の中でビーチバレー

県内唯一の常設コート「ビーチバレーコート」がオープン!

まちづくりの一環として亀岡地区の多目的活性化広場内（トレーラーハウス前）に整備を進めてきた「ビーチバレーコート」が7月9日にオープンし、記念式典が行われました。

「海のない山間部でビーチバレー」という特色を持つこのコートは、県内唯一の常設コートであり、ビーチバレーボール競技は、今年の愛媛国体から国体正式種目として内定しており、2020年東京オリンピックや国体を目指す選手の合宿の他、公式大会の誘致を目指していきます。

またコートの砂は、只見川の滝ダム上流に堆積した砂を活用すること



▲関係者によるテープカットでオープンしたコート(コートは4面、各面16m×8mの広さで公式戦にも対応)

により、町の地域資源を活かした施設となっており、5月に同敷地内にオープンしたトレーラーハウスとの相乗効果を狙います。

当日行われた式典では、菅家町長が「トレーラーハウスと共に賑わい創出の拠点としたい」と挨拶し、関係者によるテープカットでオープンしました。式典後には、元アメリカ代表のセッターでバルセロナ五輪銅メダリストの「ヨコ・ゼッターランド」さんのゲストトークや、ビーチバレー国内トップクラス8名のアスリートによるエキシビジョンマッチが行われ、レベルの高い試合に会場からは歓声が上がっていました。



▲オープンしたコートで熱戦を繰り広げる選手の皆さん

伝承産品ブランド化支援事業

平成28年度の成果を発表

只見町に伝わる伝統技術の継承と地域の資源や農産物を使った産業振興を目的とした「自然首都・只見」伝承産品ブランド化支援事業の平成28年度成果発表会が7月5日、役場本庁で行われ事業者などが参加しました。

このブランドは、町内産の原材料及び伝統的な技術を使用していることなどの要件を満たした商品が認定を受け、登録されています。

今回の発表会では、栗の花から採集した「はちみつ」や、ブナなどの草木で染めた「只見の彩り草木染」などが発表されました。今後町内の観光施設などの売店で販売される予定です。



▲認証を受けた商品を手にする事業者の皆さんと橋本副町長(左から3番目)

朝日小・只見中、地域住民が参加

「地域合同防災訓練」を開催

7月5日、朝日小学校と只見中学校が主催する「朝日地区地域合同防災訓練」が行われ、同小中学校や黒谷(町、蓮の原、沖)・上福井地区の方々約200名が参加しました。

大雨による避難を想定した訓練では、午前7時50分の只見中への避難放送を受け、参加者は一斉に自宅から避難を開始し、避難する際には中学生が避難場所への誘導を行いました。避難完了後は南会津広域消防署只見出張所や町赤十字奉仕団などの協力のもと、各会場で防災教育学習、炊き出し訓練、防災グッズ使用体験、救急処置体験などが行われ、参加者は防災への知識を高めました。



▲消防署職員の方々から簡易担架の作成方法を学ぶ小中学生の皆さん

明和自治振興会が「金賞」を受賞 ふくしま地方創生フォーラム

7月9日、県主催の「ふくしま地方創生フォーラム」が福島市内で開かれ、只見町の明和自治振興会が移住アイデアコンテストに参加し、11団体の中から大賞の「金賞」を手に入れました。

「T.A.Bankの家」で始める暮らしをテーマに、町が推進する南郷トマトや米などの新規就農者を募り、空き家バンクに登録している旧旅館をシェアハウスとして活用する「仕事と暮らしを繋ぐ家」といったアイデアについて、地域おこし協力隊の大竹友香さんが発表しました。今後も、空き家の利活用に関わる活動に取り組んでいくこととしています。



▲金賞を受賞した発表者の空家活用促進隊・大竹友香さん（左から3番目）

町の教育振興基本計画

「検討委員会」を開催

7月28日、教育委員会が設置する「只見町教育振興基本計画検討委員会」の第1回目が開催されました。これは町の「第七次只見町振興計画」に基づく教育分野の個別計画「只見町教育振興基本計画」の策定にあたり、教育関係者の意見を反映させるために開かれるものです。委員会は町内の保育人から中学校までの関係者、社会教育委員、福島大学、県立博物館や一般公募の方々と構成されています。

第1回目は委員への委嘱状交付の後、グループワークなどが行われ、計画に盛り込む内容を協議しました。今後10月までに計画をまとめ、来年度から実施できるように進めていく予定です。



▲委員長に明和小学校の渡部早苗校長が就任した検討委員会

町の小学校の未来を考える

「第2回在り方検討会」を開催

7月10日、「第2回只見町立小学校の在り方検討懇談会」が朝日振興センターで開かれました。

今回は、現在の小学校について思っていることや感じていることについてグループワークを行いました。少人数での学校については、「学力差への対応がしつかりできるが多様な考え方に触れにくい」「人間関係が親密になりやすい」「反面、「固定された関係になりやすい」との意見が出され、学校と地域については、「地区と一体となって育てられている」「集落に人が少なくなり行事の継続が心配」などの意見が出されました。懇談会では、今年度中に意見を集約し、取りまとめていきます。



▲意見を発表する委員の皆さん

プールの事故から子どもを守る

「応急手当講習会」を開催

7月11日、南会津広域消防署只見出張所の方々に講師を迎え、「応急手当講習会」が朝日振興センターで開かれ、町内の小中学校の保護者や教職員など15名が参加しました。

この講習会は、夏休み中のプールでの事故を未然に防ぎ、万一の児童・生徒の異変に対して最善の応急処置を施せるようにすることを目的に毎年行われています。

当日は、3班に分かれて実技講習を実施し、只見出張所の方々がそれぞれの班に付き、ポイントを押さえた指導を行いました。受講者の方々は、応急処置の基本を身につけようと全員が熱心に取り組んでいました。



▲心臓マッサージの方法を学ぶ参加者の皆さん